

令和7年度 学校経営方針

1 学校教育目標

- 積極的に真理の追求をする生徒
- 厳しく正しい生活をする生徒
- 強い身体と心を鍛える生徒



2 15歳の生徒像

～自己肯定感をもった「社会と向き合える生徒」～

【生徒像育成のための視点】

- ・主体的に勉強する
- ・人との関わりを大切にする
- ・自主的に運動に取り組む
- ・社会の変化に向き合える
- ・将来の（人生の）目標をもつ

☆キーワード；「達成」と「充実」 ～やり遂げ、それに満足する～

3 学校経営方針

「15歳の生徒像」を育む教育活動を展開するために、次の3点を基本方針とする。

（1）学校力を高める

- ・キーワード；「教師力・組織力の向上」「動き出す学校」

（2）生徒の夢を育む

- ・キーワード；「達成」「充実（満足）」

（3）地域とともにある学校である

- ・キーワード；「見える化から見せる増」「資源の活用」

4 目指す学校像・教師像

（1）学校像

- ・組織として進むべきベクトルを共有しさらに「学び続ける学校」

（2）教師像

- ・豊かな人間性をもった「学び続ける教師」

5 今年度の重点

（1）個別最適化された学びの達成・充実→主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善・ICTの応用

（2）豊かな心と健やかな体の育成→道徳、保健体育、部活動

（3）信頼される学校づくり→学校力の向上（授業・丁寧できめ細かな対応・安心安全）

6 経営の重点と具体的方策(経営活動)

(1) 教育課程

「資質・能力」の育成に向けた教育課程の編成～「深い学び」の実現

- ①教科等横断的な視点・学校の新しい生活様式を踏まえた教育課程の編成。
 - ・学習指導要領に則った授業と授業時数の完全確保。
 - ・対応力のある教育課程の編成。(生徒の学びを止めない!)
- ②教育課程に位置付けた地域の人的・物的資源の活用。
- ③ICTの継続的な応用等、指導方法の工夫改善による個別最適化された授業展開。
 - ・ゴール(=単位・単元)を次につなげるICT等の応用方法の工夫。
- ④総合的な学習の時間との関連を図ったキャリア教育の充実。
- ⑤特別支援教育における教科指導に自立活動を組み入れた授業展開。
- ⑥学力向上につながる補充的な学習の時間(放課後、長期休業中)の設定。

(2) 組織運営

組織として進むべきベクトルの共有化～「つながり」

- ①「分担」から「協働」へ。(「広がり」を大切にする組織!)
 - ・学年・校務部会の枠にとらわれない組織運営。
- ②企画委員会の効果的な活用。
 - ・校務分掌や学年等の「報告・連絡・相談」
 - ・不登校・いじめ対策についての「報告・連絡・相談」
- ③エビデンス(根拠)に基づく機動的な組織運営。
- ④同僚性を高める環境づくり。(教職員間の交流、教師力の向上)
 - ・C4th掲示板の効果的活用、「研修だより」の発行、校外研修内容の還流。
- ⑤作成資料の削減及び保管方法の効率化。
 - ・わかりやすい資料の提示と組織フォルダへの確実な保管。

(3) 学年・学級経営

認め合う環境づくりを核とした「自己肯定感」の向上～「達成する」「充実する」

- ①5S活動(4S+1S)の強化。(整理・整頓・清掃・清潔+躰)
 - ・躰～学校生活ルールへの遵守。基本的な生活習慣の確実な定着。
- ②達成できる活動の厳選・工夫。→生徒の主体的活動の推進。
 - ・満足感を共通認識で高め合う。
- ③「仲間の特性」を理解し合う学級づくり。
 - ・特性を付度しあう温かい人間関係づくり。
 - ・生徒・保護者と共にする学級経営。

(4) 研修活動

日常実践に直結する校内研修の充実～校内研修の単年度化とICT研修の充実

- ①研修の成果を校内研修に環流させる体制づくり。
 - ・資料提供と「研修だより」の発行。
- ②主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善。
 - ・「課題」「まとめ」「振り返り」の確実な設定。
 - ・単元のゴール地点(学びの姿)をイメージした指導計画。→「どのような力がつくのか」
 - ・ICT機器の継続的な応用。
 - ・指導と評価の一体化のための学習評価。
- ③家庭学習に「eライブラリ」の問題の活用の工夫。
- ④道徳の授業における「学習テーマ」と連動する「テーマ発問」の工夫。

(5) 教育環境の整備

教室環境のユニバーサルデザイン化～「すっきり」「わかりやすく」

- ①教師が範となる言動。
- ②教室環境の整理・整頓・清掃・清潔（4S）＋「SDGs」の徹底、及び特別教室の整備。
 - ・エネルギーや資源の有効活用。
- ③学校花壇の整備、ボランティア活動（地域清掃）等の推進。
- ④掲示広報・校内放送の工夫、図書室の利用の促進。
 - ・廊下の掲示物の精選。
- ⑤定期の安全点検による危険箇所・破損箇所の把握と補修。

(6) 家庭・地域との連携

信頼を育む地域とともにある学校づくり～CSの充実およびエリアの連携

- ①「学校教育力向上エリア会議」（第3エリア）の機能化。（苫小牧 A-9）
- ②CSの年4回の開催。（事務局：泉野小学校）
- ③地域行事への参加、及び地域の人的・物的資源の活用。（CSとの連携）
- ④「学校の新しい生活様式」を踏まえた公開の継続。
 - ・学校HP、メール配信システム、公開カレンダーの積極的な運用。
 - ・学校行事や参観日の公開工夫。
 - ・オンラインの活用に向けた体制の構築。
- ⑤家庭との連携のパイプづくり。
 - ・二者懇談・三者懇談等を生かした個別対応の強化。
 - ・「保護者アンケート」の年間2回の実施。

(7) 危機管理

未然防止・初期対応を軸とした危機管理体制の確立～「安全」「安心」の提供

- ①「自助」「共助」を柱とした防災教育の強化。
 - ・「胆振防災教育デー」の効果的な活用。
- ②最悪の事態を想定した初期対応の充実。
 - ※職員全体での共通認識のもと対応。
- ③「いじめ根絶！」。→教師の本気＋生徒の自主的活動
 - ・いじめ根絶集会の開催。「笑顔を作るスマイルプロジェクト！」
- ④食物アレルギーへの対応。
 - ・アナフィラキシーに関わる初期対応の徹底。
 - ・アレルギー対策委員会兼学校保健委員会の設置。

(8) 職場環境の整備

教員の時間外勤務の削減等に向けた実効性ある取組～必要なことについて大胆な変革

- ①「これからの学校」という押さえ。
 - ・学校行事の更なる見直し・柔軟な対応。
 - ・年度末反省の在り方の改善。（会議の廃止）
 - ・「働き方改革」も「SDGs」である。
- ②定時退勤日・学校閉庁日の設定。
 - ・確実な実践。（同じ日に部活動休養日の実施し放課後時間の確保）
- ③業務内容の効率化。（コアチームによる提案）
 - ・C4th等の効果的活用。（作成資料の保管・管理の強化等。）
- ④学習指導員・スクールサポートスタッフ等の積極的な活用。

7 指導の重点と具体的方策（教育活動）

（１）学習指導

単元を見通した授業展開とＩＣＴの積極的な活用～「個別最適化」

【授業】；「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現

- ①数値目標を明記した「学校改善プラン」に基づく、質の高い検証サイクルの確立。
 - ・生徒アンケート及び学習アンケートの年間２回の実施。
- ②共通取組場面「見通す」「決定する」「協働する」「振り返る」の確実な設定。
 - ・板書、ＩＣＴの効果的な活用。
- ③「どのような力がついたか」を重視した深い学びの実現。
- ④ＩＣＴを効果的に応用できる学びの計画。（苫小牧 A-9）
 - ・タブレット等、ＩＣＴの効果的な応用。

【補充的な学習と家庭学習】

- ⑤補充的な学習の効果を授業や定期テストにつなげる。
 - ・参加者の意識改革と習慣化。（「eライブラリ」の問題の活用を含む）
- ⑥主体的に取り組む家庭学習の充実。
 - ・家庭学習から達成感・充実感を持てる学習機会の工夫。
 - ・「eライブラリ」の活用の推進。（タブレット持ち帰りの早急な実現）

（２）生徒指導

自己指導能力を育成する積極的な生徒指導の推進～「チームで臨む」

- ①学習（教科）指導における生徒指導（自立活動）の充実。
- ②生徒理解の深化。
 - ・教育相談、各種調査、日常的な触れ合い等。
 - ・情報の共有化と「チームで臨む」生徒指導。
- ③自己管理能力の育成。
- ④いじめ・不登校対策における未然防止と初期対応の強化。
 - ・「笑顔を作るスマイルプロジェクト」「いじめ問題子どもサミット」の効果的な活用。
- ⑤保護者・関係機関等との連携と協力体制の構築。（苫小牧 A-9）

（３）道徳教育

豊かな心の涵養を目指す道徳教育の充実～道徳の時間における「振り返り」の工夫

- ①他領域と関連を図った全体計画に基づいた「特別の教科 道徳」の時間の推進。
 - ・「学習テーマ」と連動する「振り返り」の工夫。
- ②道徳推進教師を中核とした全教員が道徳の指導に当たる体制強化。
 - ・道徳の研究（公開）授業を実施。
- ③地域の人的・物的資源の積極的活用。
 - ・こころの授業、マナー教室等。
- ④学校行事の効果的な活用。
 - ・生徒の自主的な活動の推進。（いじめ問題など）

(4) 特別活動

自己実現を図ろうとする態度の育成（集団活動を通して）～「ねらい」の明確化

- ・「心を開く」「心に近づく」取組の強化（挨拶）
- ・「良好な人間関係」「社会性」の育成→「自己実現を図ろうとする態度」の育成
- ①生徒会活動・学校行事における「ねらい」を明確にした指導の重視。
- ②生徒会と学級のつながりの強化。
- ③「達成感」「充実感」を実感させる指導の工夫。
 - ・「挨拶」「ありがとう」が飛び交う環境づくり。
 - ・生徒の自主的な活動（生徒会活動・学級活動・部活動）の推進。
 - ・「認め合い」「やりがい」を生む意図的な活動の推進。

(5) 総合的な学習の時間

課題解決できる「生きる力」の育成～「キャリア・パスポート」の有効活用

- ①教科等横断的な視点及び職場体験活動の重視。
- ②自主的な課題設定と「解決への見通しをもって取り組む過程」を見取る評価の工夫と充実。

(6) 進路指導

自己実現につながる生き方指導と個に応じた進路指導の充実～「個への支援」の強化

- ①個に寄り添った生き方指導の充実。～「良さの発見」
- ②社会的・職業的自立を育む資質・能力の育成。
 - ・地域の人的・物的資源の活用。
- ③進路選択に向けたきめ細やかな情報の収集と提供。
- ④進路業務の適正化、効率化、迅速化、及び正確かつ万全な業務の遂行。

(7) 健康安全指導

生命の尊重と体力の向上～「危険回避能力」の向上

- ①運動に親しむ機会の設定と体力向上を図る取組。（主に、保健体育・体育大会・部活動）
 - ・新体力テストの調査結果等の効果的な活用。
 - ・保健体育科の授業改善、及び体育大会の有効活用。
- ②こころ（命）の授業の効果的な活用、心の健康、性、薬物等に関する指導の充実。
- ③食物アレルギーへの対応等、食に関する指導の充実。
 - ・アレルギー対応委員会の効果的運用。
 - ・AED研修会の開催。
- ④危機管理意識の向上。
- ⑤校内及び登下校時の安全体制の確立。

(8) 特別支援教育

「個別最適化」され「創造性」を育む特別支援教育の充実～「いかに効果的か」

- ①「指導の形態」の選定。
 - ・通常の学級の教科担任による特別支援学級での授業の実践。
- ②教科指導に自立活動を組み入れた授業の推進。
- ③特別支援コーディネーターを中心にした校内支援委員会の機能強化。
 - ・「特別支援教育支援員」の有効活用。
 - ・「心の教室相談員」「スクールカウンセラー」との必要な連携。
- ④個に応じた教育課程の編成。個別の指導計画、支援計画の作成と活用。
- ⑤小学校との交流、及び関係・専門機関との連携強化。（苫小牧A-9）